



「比和自然科学博物館だより」として、新情報や収蔵展示資料の紹介などをしていきます。紹介した展示資料が館内のどこにあるのか、探してみると楽しいですよ！

※展示標本と写真の個体は同じではない場合がありますので、ご了承ください。

今月の推し虫

和名: クロコノマチョウ

学名: *Melanitis phedima*

南方系のチョウですが、近年は県北でも見かけることが増えました。特に秋になると、熟した柿の実に集まって吸汁している姿をよく見かけます。

日中は草の間や藪の中に潜んでおり、日が陰ってくると活動を始めます。一見すると蛾のような姿ですが、タテハチョウ科ジャノメチョウ亜科に属し、前肢が退化して細い棒状になっています。

警戒心が強く、止まっても人が近づくと藪や草の間にすっと潜り込んで上手に隠れてしまいます。翅の裏表は濃褐色から淡褐色まで変化があり、翅を閉じて止まっていると林内では周囲に溶け込んで見つけるのは困難です。しかし、人が通った拍子に突然飛び出すことがあり、驚かされることもあります。

飛び方は「バタバタ」とした独特のもので、他のチョウのようにひらひら舞ったり、滑空するように飛ぶ感じとは異なります。よく似たウスイロコノマチョウはより暖地を好み、広島県内では迷チョウとしてまれに見られる程度です。



【解説：秋山美文（比和自然科学博物館客員研究員）】

